

## 千葉氏の滅亡

これより先、後北条氏は、領国内の諸將に精兵を率いて小田原城に集結するよう、動員令を下している。両総から参陣した面々は、重胤のほか、原式部大輔胤義、土気城主酒井伯耆守康治・同子息与左衛門尉重治、東金城主酒井左衛門尉政辰、万喜の大會根右馬允、大谷口城主高城胤則らであった。秀吉は小田原城を攻めると同時に、部下の浅野長吉、木村重茲を両総に派遣、家康も本多忠勝、鳥居元忠、平岩親吉らをおくり、両総の諸城を後略させた。これら両総の諸城は、無抵抗に近い状態で開城したといわれる。特に、浅野・木村の率いる豊臣軍は、野田庄内十二郷―下総国万満寺(松戸市馬橋)―印東庄本桜十二郷―大戸庄六箇村(佐原市大戸)―下総大須賀分領(下総町助崎付近)―匝瑳庄見徳寺(八日市場市)に禁制を下している。このうち本町にかかわる印東庄本桜十二郷の禁制の添状をとりあげておこう。

当所之御朱印取次ぎ候て申し遣し候間、狼藉之族一切之れ在る間敷く候、若し違犯の輩、之れ有るに於ては、此方へ申し来るべく候なり

浅野弾正少弼

五月二日

長吉(花押)

木村常陸介

一(花押)

下総国

印東庄本桜十式口

之内七ヶ寺

とある。浅野長吉、木村一連署添状のみにて、「御朱印」とよばれている天正十八年に出されたと考えられる禁制は現存しない。この点を特にお断りしておきたい。本添状は、佐倉市勝胤寺に伝わるものであり、七か寺のうちの本寺を除く、外の寺院は不明である。

天正十八年の五月のはじめには、本佐倉城は落城し、同月十八日には内藤家長により接収されている。かくて、小田原城は孤立無援の状態となり、ついに七月五日開城を申し出た。十一日に氏政・氏照は自刃したが、氏直は高野山へ追放され、里見を除く房総の諸家は、北條氏と運命をともにした。特に、重胤については、命を助けられただけで領地はすべて没収された。寛永十年（一六三三）六月十六日享年五八歳で、江戸において没している。